

## 令和2年度 事業報告

### 【施設目標に対する達成度合い】

施設目標を『弱点の強化』と定め、部署・個人にレベルの向上をお願いし、この部分については、各部署長の意識向上と指導による成果が見られたと考えております。特に大きく進歩したのが問題への対処法で、原因の深掘りと根本的な解決方法を考える職場体質に変わってきています。ただし、現状まだまだ発展途上であり、今後も継続して取り組むべき課題と考えております。

一方、収益面においては黒字とはなりましたが、事業計画通りとはならず、居宅部門の稼働率低下が大きく影響しました。コロナウイルスによる影響も多少あったとは思いますが、怪我・病気による入院が非常に多かったことが主な原因だと考えていますので、この『入院』を少しでも減らせるよう、令和3年度からは『機能訓練』に力を入れる方向で計画を進めていきます。

### 【感染症対策】

1年半近い面会中止措置と、職員の自覚ある行動のお陰で、施設での感染症発生はありませんでしたが、同時に入所者・入所者家族、職員に精神的な疲労が溜まっています。この点を早急に対策すべく、入居者・職員が2回目のワクチン接種終了となった時点で、国内・近隣の感染状況や感染リスクを検討の上で、制限の緩和を行いたいと考えています。

### 【総括】

事業は概ね順調に推移していますが、開所から17年が経過し、建物・設備の老朽化（補修部品切れ含む）が加速しているため、数年後には大規模修繕・備品入れ替えが必要となります。その一方、賀茂地区・河津町が抱える人口減少問題が加速しており、施設を取り巻く環境は開設当時とは大きく変わっています。

限られた資源の中で事業を継続していくためには、単に今の形を修繕するのではなく、地域のニーズに沿った形に作り替えることが必要となりますので、地域の動向を注視しながら先々を見据えた判断をしていきます。

令和3年5月  
施設長 真下 和人